

議事録

件 名：令和元年度第 1 回さぬき市地域公共交通会議

日 時：令和元年 7 月 1 日（月）午後 2 時～午後 4 時 10 分

場 所：さぬき市役所 3 階 302 会議室

出席者：【委員】紀伊会長、尾崎委員（会長職務代理者）、佐藤委員（代理出席）、
六車委員、白山委員、中村委員、松本委員、山内委員、頼富委員、村上委員、
溝渕委員、岡林委員、木村委員、近藤委員、佐々木委員、中野委員、灘井委員、
藤本委員、宮崎委員、元山委員、八木委員、堀委員
【市】大山市長、都市整備課 津田課長、満濃主幹、津村副主幹

傍聴者：3 人

配布資料：資料 1 さぬき市コミュニティバスの運行状況①
資料 1-2 さぬき市コミュニティバス路線図
資料 2 さぬき市コミュニティバスの運行状況②
資料 3 週間スケジュール
資料 4 さぬき市地域公共交通に関する各種実態調査項目（案）

【次第及び議事概要】

1 開会

2 市長挨拶

3 委員紹介

4 議事

（1）会長の選任について

事務局：さぬき市地域公共交通会議設置要綱第 4 条に会長は委員の互選により定めるとあり、
皆さまからのご推薦はあるか。なければ、事務局案を提示したい。

全 員：異議無し。

事務局：学識経験者として就任いただいている香川大学創造工学部教授の紀伊委員にお願い
したいと思うがいかがか。

全 員：異議無し。

事 務 局：紀伊会長が遅れているため、職務代理者の指名について事務局で代行したい。

地域公共交通会議の設置要綱第4条第3項に、会長に事故がある場合には、あらかじめ会長が指名する者がその職務を代理するとあるので、尾崎委員に職務代理者をお願いしたいがいかがか。

全 員：異議無し。

事 務 局：紀伊会長が到着するまで尾崎委員に職務代理者として進行をお願いしたい。

(2) さぬき市コミュニティバスの運行状況について

事 務 局：資料説明【資料1、資料1-2、資料2】

職務代理：路線別の利用者数に差があるのはどのような背景があるのか、わかれば教えてほしい。

事 務 局：利用者が一番少ない津田小田鶴羽巡回線は、地域の高齢化が進んでおり、よく利用されていた方がお亡くなりになるなどの状況がある。利用者が上昇傾向にある市内循環線については、他の路線から乗り換えて市民病院を利用する人が多い印象だ。今後、バス停ごとの利用者状況などをリサーチする中で分析していきたい。

委 員：市内循環線や志度小田線は文理大の学生が利用しているため多くなっているのではないか。

事 務 局：ご推察のとおり徳島文理大の学生の利用は多い。参考としてお伝えするが、徳島文理大学に近い3つのバス停、徳島文理大学（構内）、徳島文理大国道口、徳島文理大・音楽ホール口で降りた方は、平成29年度でおよそ22,000人となっている。

委 員：市民にとって便利なものとなっているのか、今後の伸びしろがどうなるのかを掘り下げてほしい。H19からH20年度にかけて利用者数が減っているが、理由は運賃値上げが影響しているのか。

事 務 局：運賃値上げの影響はあったと聞いている。

委 員：ここ最近は安定していると理解して良いのか。

事 務 局：そのように理解している。

職務代理：路線ごとの時間帯別のデータはあるのか。

事 務 局：時間ごとのデータはあり、現在分析しているところだ。

職務代理：利用者目線とダイヤや路線は合っているのか。

事 務 局：かつて、利用者の意見と市内交通事業者（運行受託事業者）の意見などを聞きながら見直したが、時の流れとともにニーズは変わると考えられる。

委 員：利用者数の推移をみると運賃を上げたときは利用者が減っている。100円にするともっと乗ってもらえるのか。200円にしてもそれほど全体の収入増にはならないのではないか、どうしてみんな乗らないのか。

事務局：安かったら乗るのか、という議論はある。ただ、安くても（不便に思うなら）乗らないし、自家用車で移動ができるから乗らない、という人は多い。ニーズ調査の結果を見ながら議論していきたい。

職務代理：この会議は今後どのようにしたら良いのかを議論する場なので、今日は現状を報告していただいたので、今後いろいろご指摘いただきたい。
会長が到着したので進行をバトンタッチしたい。

（３）今後のスケジュールについて

事務局：資料説明【資料３、資料４】

委員：デマンド交通の実験をするということだが、エリアはどこを考えているのか。

事務局：デマンド交通の実験対象候補地は、さぬき市人口ビジョンで２０２０年に高齢化率が５０％を超えると見込んでいる地域を考えている。具体的には、小田、松尾、前山、多和地区である。

委員：支会長などに連絡はあるのか。

事務局：支会長などに意見を聞き、実験地域の最終的な判断をしていく。

委員：高校生アンケートは、バス利用の希望者が多いから実施するのか。

事務局：津田高校の学生を中心に、通学時の利用者はいらっしゃる。石田高校に通うためのバスがなく不便、との声も届いている。保護者の送迎も隠れたニーズと考えているので、４校で、休日の利用状況なども含めて調査したいと考えている。

委員：スクールバスをコミュニティバスに変更した場合にどのようなメリット・デメリットがあるか検討したらどうか。

事務局：教育委員会等と協議していきたい。

委員：事務局からの方針や見解は紙ベースで配布したほうが議論しやすい。

公共交通利用者としてターゲットになるのは高校生や高齢者といった主に車を使わない方だと思う。高校生は提案のアンケートでいいと思うが、高齢者のニーズはどうやって聞き取るのか。市民アンケート調査のターゲットも絞ったらどうか。

事務局：紙ベースで出すように心がける。今後、ワークショップなどで意見を伺っていく予定だが、（ご意見を参考に）検討したい。

会長：新交通体系というものがどのような位置づけになるのかももう少し明確になるとわかりやすい。目指すべきところについて何か意見はあるか。

委員：新しく見直しをするという意味で取組内容は良いと思うが、デマンドについてもスマホやアプリの技術がいろいろ進歩しているので、新しい技術サービスの事例調査も実施した方が良いのではないか。

会長：新しい技術を入れるためには実証による検証が必要であるため、国の補助メニューも活用できるのではないか。

- 委員：実証運行や再編をする際に使える補助メニューはあるので相談してほしい。
- 委員：地域ごとに実情は異なり、社会環境の変化も大きい。公共交通事業の担い手も減っている。また、他の自治体の事例だが、地域住民へのヒアリング結果から、70歳を超えても車の運転をしている高齢者は多いが、本当は車を使うのがしんどいと言っている高齢者もいる。その自治体では、高齢者のためにコミュニティバスが運行されているが、コミュニティバスの使い方を知らない高齢者が多く、コミュニティバスが有効に活用されているとは言い難い状況になっている。話は変わるが、一般的に、バスを利用している人はバスの時間に合わせて生活リズムをつくっているため、何時に便があれば便利かといった質問には答えられない傾向にあるようだ。ただ、状況は刻一刻と変わっているので、早く手を打たないと手遅れになってしまう可能性が高い。タクシーも廃業する事業者が増えてきているし、担い手不足などでニーズの多様化に対応しきれなくなっているので一緒に考えていく必要がある。この会の役割は、さぬき市の公共交通がよい方向に向かっていけるように、それぞれの立場で忌憚のない意見を出し合うことだと思う。事務局も、悩むことがあれば議題として提出して皆さんに揉んでもらった方が良くと思うのでそうしてほしい。
- 委員：経費に関する協議はこの会議の中で議論するのか。本日の資料、特に運行経費の推移に関する数字は外に出しても良いのか。コミュニティバス委託料の内訳も知りたい。
- 事務局：運行経費の推移を含め外部に公表いただいてもかまわない。運行委託料の内訳は、平成30年度でいえば、バスがおよそ4,600万円で残りがタクシーとなっている。
- 委員：経費の資料として（詳細を）出してもらえるのか。今の口頭説明で終わるのか。
- 事務局：検討させてほしい。
- 会長：経費をここで議論するのは難しいと思うがいかがか。
- 事務局：支出は運行委託料と印刷製本費や修繕費のみとなっている。見積合わせや市内のバス事業者、すべてのタクシー事業者との協議などを経て決定している。
- 会長：これからむしろコストは上がるのではないか。支出についてこの会でどのような議論ができるか。
- 委員：最低賃金が上がっているし、タクシー運賃も決まっているので委託料は上がっていくことが想定される。委託料が上がってコミュニティバスの運行を断念する自治体もある。誰が何を負担するのか、負担割合を検討する必要があるだろう。
- 会長：運行に対する様々な要望が上がってくるだろうが、受益者負担について考えることも必要と思える。先進技術の活用も考える必要があるだろう。
- 委員：デマンドタクシーとコミュニティバスは全く異なるものなので、すべてを切り替えることは難しいのではないか。どのように考えているのか。
- 事務局：財政状況も考えながらベストミックスを目指していく。

- 委員：運転に不安な高齢者がコミュニティバスを手軽に使えるら良いと思う。市の財政負担は大きいが、市民満足度を上げるように市民目線で考えてほしい。
- 委員：現在は市が運行経費の多くを負担しているが、運行経費は必ずしも市が負担するものではなく、誰が負担するのか議論する必要がある。
- 委員：自分が行きたいときに行きたい場所に連れて行くことには無理がある。全員のニーズを対応するのは難しい。どこを目指すのか、何にスポットを当ててるのか、コンセプトを明確にすることが重要である。
- 会長：交通サービスに対する対価を払うことになるので、幅広い観点で議論することが必要である。
- 委員：市民以外の観光需要について、市の考えを伺いたい。
- 事務局：市民の生活を支えるスタイルを重視するが、観光路線も併せて議論していきたい。
- 委員：市内にはコミュニティバスだけでなく、JR、ことでん、大川バス、タクシーなど既存公共交通もあるので、すべてが維持できるようミックスしながら検討してほしい。

5 その他

(1) 市内地域公共交通に関する懇談

(2) 事務連絡

6 閉会

以上